

2019年12月29日(日)朝10:10～ 主の降誕節第1、自由交歓会等
12月第4年末共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：十字架を背負う者(38節)

聖書:マタイ 10章34～39節

<口語訳>

新約聖書15～16頁

マタイ 10章34～39節

<新共同訳>

新約聖書18～ 頁

マタイ 10章34～39節

<新改訳第3版>

新約聖書19～ 頁

マタイ 10章34～39節

<塚本訳>

新約聖書95～96頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。

◇本日の**マタイ10:34～39**は、「**十字架を背負って主に従う者(38)**」が、**神の御子イエス・キリスト様**の命令であることを語っています。

⇒主は、「**剣をもたらすために来た**」(34)のことばに始まり、「**この世の命を失う者は、(永遠の)命を得る**」との終わりのことばで、締めくくる厳格なことばを語っておられます。

⇒主が、十字架の死に至るまで忠実であったように、主の弟子たちに十字架の道を示されます。

⇒主は、十字架の道以外の道がないことを明示、主の弟子たちに妥協の道・生き方がないことを語っておられます。

⇒主が、私たちの弱さを憐れんで下さることと、妥協なき服従とを混同してはなりません。

本論；

◇本日、**マタイ書10章34～39節**から主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ10章34～39節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天の父**に「**服従された**」ように、**御子イエス・キリスト様**に従い、**主の十字架の道・生き方**をすることを**お求め**です。

◇**34～39節**；**塚本訳**◆**わたしは剣をもたらすために来た**

「34 地上に平和をもたらすためにわたしが来た、などと考えるはならない。平和ではない、剣を、(戦いを)もたらすために来たのである。

35 わたしは子を『その父と、娘を母と、嫁を姑と』仲違いさせるために来たのだから。

36 『家族が自分の敵となろう。』

37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。

38 また自分の十字架を取ってわたしのあとに従わない者は、わたし(の弟子たる)に適しない。

39 (十字架を避けてこの世の)命を得る者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るであろう。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**34～37節** ;「地上に平和をもたらすためにわたしが来た、などと考えるはならない。平和ではない、剣を、(戦いを)もたらすために来たのである(34)」、「わたしは子を『その父と、娘を母と、嫁を姑と』仲違いさせるために来たのだから(35)」、「『家族が自分の敵となろう。』(36)」、「わたしよりも父や母を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない(37)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「わたしよりも父や母を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない(37)」と、主の弟子として、主と生きる決意・決断を明確にお求めです。弟子でなければ、このような要求をなさいません。

⇒主の弟子とは、何かが問われています。

- ⇒使徒は、派遣される者ですが、弟子は、派遣もされますが、基本的に「主に見習う者」で、主からどう生きるかを学び取る者です。
- ⇒主人は、弟子が主人からあらゆるものを学び、主人なき後、自分の弟子を同じ心で育てるのです。
- ⇒**SY師**は、10章は、神の国に関する教えをまとめているわけです。その長い伝道命令で、①第一に伝道の方法(5～15節)、②第二に伝道者の忍耐(16～23節)、③第三に伝道者の勇気を教えられました(24～33節)。それに続いて最後に教えられたことは(34節～11章1節)、一口で言うと、伝道によって育成すべき入信者についての教えです。まず第一に、イエスは伝道の直接的な結果について語っておられます(34～36節)と、語っています。
- ⇒旧約聖書は、平和について預言していました(イザヤ書9:6、ミカ書5:4～5、エゼキエル34:24～25)。
- ⇒**平和**は、戦いの中で、**天の父なる神**から与えられたもので、殉教の死を担う平和の心です。

◇**38～39節** ; 「また自分の十字架を取ってわたしのあとに従わない者は、わたし(の弟子たる)に適しない(38)」、「(十字架を避けてこの世の)命を得る者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るであろう(39)」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、「自分の十字架を取ってわたしのあとに従わない者は、わたし(の弟子たる)に適しない(38)」と断言し、主への服従が、「(十字架を避けてこの世の)命を得る者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るであろう」と、重要な結果を受け取ることになると問うておられます。

⇒**SY師**は、第二に、「キリストに弟子入りする者は、自分を捨てなくてはなりません」と、**マタイ 10:37～39節**の**御子イエス・キリスト様の思い**に寄り添って語っておられます。

⇒「**十字架を背負う者**」は、この世の永楽、精神的物質的満足の生活の決別が求められます。決して、余暇を楽しんだり、娯楽を禁じたり、節制を優先して禁欲に走ることでもありません。

⇒大前提があって、「主の弟子」として、派遣される時で、**御子イエス・キリスト様**が、私たちの罪のために**十字架の死**を**背負う者**とな**っておられること**を忘れて、**神の国**を宣べ伝える奉仕は、決して赦されないということです。

⇒「わたしよりも父や母を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない」と、主は仰せですが、親不孝や親子関係の否定をしておられるのではなく、父母も、子供も、**神の愛**が、祝福のしるしとして与えて下さるので、**神の愛**なしのあらゆる人間関係は、どんなに表面はよいものでも、『家族が自分の敵となろう。』(36)と**神の御子イエス・キリスト様**が予告されるように、**神**に従わない家族は、**御子イエス・キリスト様に従う生活**を邪魔する存在になりやすいのです。

⇒NSさんのあかしが、百万人の福音に記載されています。2016年3月、(三女一男の)次女、Mさん(当時21歳)をスキルス胃がんで亡くされ、「人生の大嵐」の中で霊的同伴者として生きたあかしで、「【新改訳2017】ルカ8:23 舟で渡って

いる間に、イエスは眠り始められた。ところが**突風**が湖に吹きおろして来たので、彼らは水をかぶって危険になった。」の聖句から、「隣に座って」のあかし集を出版されました。

30時間におよぶ最後のとき、Mさんは、「アイアウ ユウ(I love you)」と3回叫び、家族が見守る中、召されて行かれました。

⇒Mさんは、癒されませんでしたでしたが、Nさんは、肌身で、Mさんが愛の勝利を高らかに叫んで旅立ったと、あかししておられます。

⇒Mさんは、21歳の人生の最後に、Sさんから愛され、**神**に愛されていることを告白されたのです。彼女にとっての死の十字架を背負っての旅立ちでした。

⇒主と同じ十字架を背負わせていただくのですが、何時、どんな時かは、主が教えて下さいます。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。

◇本日の**マタイ10:34～39**は、「**十字架を背負って主に従う者(38)**」が、**神の御子イエス・キリスト様**の命令であることを語っています。

⇒主は、「**剣をもたらすために来た**」(34)のことばに始まり、「**この世の命を失う者は、(永遠の)命を得る**」との終わりのことばで、締めくくる厳格なことばを語っておられます。

⇒主が、十字架の死に至るまで忠実なように、主の弟子たちに十字架の道を示されます。

⇒主は、十字架の道以外の道がないことを明示、主の弟子たちに妥協の道・生き方がないことを語っておられます。

⇒主が、私たちの弱さを憐れんで下さることと、妥協なき服従とを混同してはなりません。

⇒第一に、イエスは伝道の直接的な結果について語っておられ(34～36節)、第二に、「キリストに弟子入りする者は、自分を捨てなくてはなりません」と、主は語り、「**十字架を背負う者**」の歩む道を示されました。

⇒主とともに、「**十字架を背負わせていただく者**」は、「わたしよりも父や母を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたし(の弟子たる)に適しない。また自分の十字架を取ってわたしのあとに従わない者は、わたし(の弟子たる)に適しない」と、主が語られることばを主の弟子として聞くことが求められています。

⇒次に主が、「(十字架を避けてこの世の)命を得る者は(永遠の)命を失い、わたしのために(この世の)命を失う者は、(永遠の)命を得るであろう」と、明確に主に服従する弟子たちのあるべき姿を示されます。

⇒ロマ6:6 私たちは知っています。私たちの**古い**人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。